平成23年度　帰国隊員/青年支援プロジェクト　実施報告書　　提出日　2012年　9月　11日		
氏名：　中沢美保子	実施国：タンザニア	協力活動・(調査研究)
活動名称	遺児の社会経済的状況と教育への影響に関する調査・研究 —タンザニアの大都市低所得地帯と地方都市を事例に—	
実施期間	2011年12月17日～2012年3月16日	

（1）活動内容

● 調査内容及び日程：
遺児の教育アウトプットについてサプライサイドからの分析を行うため、イリンガ州ンジョンベ県農村部と都市部及びダルエスサラーム州キノンドニ県において対面式面接調査票を用いた世帯調査及び学校や県庁等関連機関における資料収集を行った。各地域での調査は以下の日程で行った。
ンジョンベ県：1月6日～2月3日（資料収集・世帯調査）、3月6日～3月16日（質的調査）
キノンドニ県：2011年12月17～2012年1月5日（調査準備・資料収集）、2月1日～3月2日(世帯調査)

● 調査手順：
調査に当たっては県から最も教育アウトプット（就学率・進学率等）が優秀な村と悪い村を1村ずつ選択（計2村）後、各村を3軒とばしで訪問し、小学校就学年齢の児童がいる世帯の世帯主及び児童に質問票を用いたインタビューを実施した。両親と暮らす児童、親と離れて暮らす児童、遺児それぞれの比較を行うため、対象を遺児のみではなく、小学校就学年齢の児童がいる世帯とした。
質問票の主な内容は世帯主の性別、年齢、続柄、職業、児童の性別、年齢、1日の労働時間と仕事の内容、失った親が父か母か、あるいは両方か〈遺児のみ〉等。
就学している児童についてはどの学校に行っているかを聞き、後日出席簿と成績表を入手した。
調査によって得られたサンプル数は以下の通り。
ンジョンベ（農村部）
児童数：144名
世帯数：95世帯
キノンドニ（都市部）
児童数：163名
世帯数：105世帯

● 調査結果：
1. 児童の特徴
① 遺児
ンジョンベ（農村部）の遺児の割合は、母親を亡くした遺児、父親を亡くした遺児、両親を亡くした遺児がそれぞれ3%、31%、7%と非常に高くなっており、これは同地域の高いHIV/AIDS罹患率が影響していると考えられる。
同様にHIV/AIDS罹患率が高いキノンドニ（都市部）では、母親を亡くした遺児、父親を亡くした遺児、両親を亡くした遺児がそれぞれ4%、9%、0%となっており、今回の調査結果を見ると遺児の人数はさほど多くはない。何故多くないかは明らかではないが、先行研究では、都市部に住む夫婦が妻か夫を亡くした場合、子供を田舎の両親に預けるケースが多く見られると言われている（山野・島村,2005）[1]。
父親を亡くした遺児の割合を見てみると、ンジョンベとキノンドニの両方で母親を亡くした遺児よりも高くなっている。父親を亡くした遺児が多いことについては、夫婦間の年齢差が大きいことや男性の死亡率が高いことなどが関係していると言われている。学年別に見てみると、両地域において遺児の割合は高学年で増加している。
②親と別居する児童
親と別居している児童の割合はンジョンベとキノンドニでそれぞれ7%、18%であり、キノンドニの割合のほうが高くなっている。キノンドニ県社会福祉課で行った聞き取り調査では、婚外子が多いことや離婚率が高いことなどが、親と別居している児童が多い理由として挙げられた。

2. 遺児の教育アウトプット
ンジョンベでは父親を亡くした遺児、母親を亡くした遺児、両親をなくした遺児のすべてにおいて両親と同居している児童よりも成績・出席率ともに低くなっている。
ンジョンベでは特に母親を亡くした遺児の成績と出席率が低い。母親の養育者としての役割は父親に比べて代替がききにくいと言われているため、母親を亡くした遺児が誰と住むかに関わらず、母親の不在

1）『アフリカレポート』 2005年3月 No.40; 山野峰 / 島村靖治 「ウガンダにおける遺児の学校就学

が与える影響は大きいと考えられる。
父親を亡くした遺児の成績は両親と同居している児童と大きく変わらなかった。これは母親の教育に対するコミットメントの強さや、女性世帯主になることで児童の教育に対して自由にリソースを配分できるようになったことが背景として考えられる。

②キノンドニ（都市部）
特に高学年において、父親を亡くした遺児、母親を亡くした遺児、両親を亡くした遺児の成績が両親と同居している児童に比べて低くなっている。
母親を亡くした遺児の成績が両親と同居の児童より低い点については、ンジョンベと同様の理由が考えられる。父親を亡くした遺児の成績は特に低くなっているが、何故低いかについては必ずしも明らかではないため、今後の調査の課題とする。

3.　親と別居している児童の教育アウトプット
①キノンドニ（都市部）
キノンドニでは、親と別居している児童の成績と出席率は両親と同居の遺児よりも低くなっている。キノンドニでは婚外子が非常に多く、棄児が多いことが問題視されている。こういった児童の親の、教育に対するコミットメントは、低いことが推察される。
②ンジョンベ（農村部）
ンジョンベでは親と別居している児童の成績は、両親と同居の児童よりも高くなっている。世帯主に追加調査を行ったところ、2件中2件とも、もともと優秀であった児童を、更により良い教育環境に置くために、町の中心部に住む自分のところに引き取ったと答えた。このようなケースは、経済的な理由で引き取られるケース等とは異なるため、両親と別居の児童を脆弱な児童の集団として比較分析を行っていく上では、今後こうした児童を除いて考えていく必要がある。
今回の調査では、経済的な理由等で親と別居している児童の姿をとらえることが出来なかったため、今後の調査でこうした児童の実態を調べ、キノンドニと比較を行う必要がある。

4.　親類のネットワーク
都市化などの影響により、都市部の親類ネットワークは農村部に比べ衰退していることが予想され、そのことが教育アウトプットにも影響を与えていると考えられるため、親類のネットワークの強さを測る一つの基準として、世帯外の親類からの教育に関する支援の有無について調査を行った。
世帯外の親類からの資金的物的支援はンジョンベとキノンドニの両方であまり多く見ることはできなかった。しかしキノンドニではンジョンベに比べ、両親と同居の児童と遺児、両親と別居の児童の成績の格差が大きくなっているため、やはりンジョンベ（農村部）の親類ネットワークは都市部に比べより強固であり、脆弱な児童の包摂に貢献していると推測できる。一般的に、都市よりも農村の児童のほうが困難な状況におかれていると考えられているため、都市の遺児が脆弱である可能性を示せたことは意義があると思われる。

5.　総括及び今後の課題
今回の調査結果からは、遺児及び親と別居している児童の教育アウトプットが両親と同居の児童よりも低い傾向が見られた。またンジョンベ（農村）においてより成績格差が少ないことからは、農村においてより親類のネットワークが強固であることが推察される。今後2度目の調査を実施し、今回の調査結果を裏付けていく予定である。

（2）活動を振り返ってうまくいった点、反省点

- 世帯の状況と児童の教育アウトプットを紐づけた貴重なデータを得ることが出来たが、都市部では1つのストリートに住む児童が20以上の学校に通っており、すべてを追跡して出席状況や成績についてのデータを収集することが困難だった。また学校によりデータの質や保存状況にばらつきがあり、調査期間中に十分な資料をそろえることが出来ないケースがあった。
- 世帯調査や学校、県庁での資料収集は、ある程度の時期から調査員にゆだね、報告者は非構造化インタビューなどの質的調査に専念する計画であったが、調査員の指導・監督に想像以上に時間を取られ、十分な質的調査を行うことが出来なかった。

（3）活動を通じて、国際貢献、国際交流ができたと思う点

タンザニアにおいて脆弱な児童の実態を明らかにし、教育との関係を解明することは、ＵＰＥの最後の数%を押し上げるためにも不可欠であることから、本研究は初等教育開発実務者の政策形成に寄与しうると考えられる。

また、地域によって異なる児童の脆弱性を明らかにすることは、保健分野、児童福祉、児童労働等に係る政策形成に活用しうることから、本研究の他分野への利用可能性は高いと考えられる。

(4) 今回の事業をふまえ今後の計画

質的情報に加え、今回の調査で得られなかった情報については、今後個人的に実施する第２回目の調査で明らかにする予定で現在準備を進めている。

平成22年度　帰国隊員/青年支援プロジェクト 支援経費の支出報告書　　提出日　2012年9月2日			
氏名:中沢美保子		実施国：タンザニア	支援金額　38万円
費目		費用	総費用内訳（計算根拠を具体的に）
(1)旅費	国内旅費	10.6万円 (10.6万円)	調査地間の移動に係る4駆車借上費（ドライバー・ガソリン代込）：
			計 Tsh. 2,209,000=105,891円（OANDA　2011年12月17日レート）
	海外旅費	万円 (　　)	
(2) 人件費	協力者謝金	3.4万円 (3.4万円)	政府・学校関係協力者:(Tsh. 10,000x66名x1日
			=660,000)+（Tsh. 5,000x4名x1日=Tsh. 20,000)
			+（Tsh. 15,000x2名x1日=Tsh. 30,000)=Tsh. 710,000
			Tsh. 710,000=34,034.6円（OANDA　2011年12月17日レート）
	補助者謝金	19.2万円 (19.2万円)	①　リサーチアシスタント(ンジョンベ)：40,000x2名x20日
			=Tsh. 1,600,000
			②　リサーチアシスタント(ダルエスサラーム)：40,000x3名x20日
			=Tsh. 2,400,000
			①　Tsh. 1,600,000+②Tsh. 2,400,000=Tsh. 4,000,000
			Tsh. 4,000,000=191,744円（OANDA　2011年12月17日レート）

(3)器具・備品費	万円 (　　)	
(4)借用費	万円 (　　)	
(5)会議費	0.8 万円 (0.8 万円)	打合せの際の食料・飲料：計 Tsh. 170,500=8,173.10 円 (OANDA　2011 年 12 月 17 日レート)
(6)資料費	万円 (　　)	
(7)印刷・複写・製本費	万円 (　　)	
(8)通信・運搬費	0.7 万円 (0.7 万円)	携帯電話プリペイドカード購入費：計 Tsh. 153,000=7,334.22 円 (OANDA　2011 年 12 月 17 日レート)
(9)消耗品費	万円 (　　)	
(10)雑費	2.7 万円 (2.7 万円)	調査許可申請手数料 US$50＋登録料 US$300=US$350 US$350=27,246.7 円　(OANDA　2011 年 12 月 17 日レート)
総費用 (内支援金額)	37.4 万円 (37.4 万円)	

※(　)内に、支援金の使用額を記入ください。